

海外英語研修における学習動機と学習ストラテジーに関する一考察

竹 田 明 彦

(武庫川女子大学文学部英米文学科)

A Study of Learning Motivation and Learning Strategies in the Overseas English Training Program

Akihiko Takeda

*Department of English, Faculty of Letters,
Mukogawa Women's University, Nishinomiya 663-8558, Japan*

Results of overseas English training programs are apt to be evaluated by the comparison between a pre-test and a post-test of English competence. Although the program has a great influence on learning motivation and learning strategies of students, they are seldom investigated. In this study learning motivation and learning strategies are investigated by a questionnaire at three learning stages: two months before the program; just after the program; six months after the program. The analysis of the data of a questionnaire shows the following: students are highly motivated just after the overseas English training program, and they are especially integratively motivated. High achievers of JACET listening test are motivated toward learning English more than low achievers.

The data shows that students came to adopt some new strategies which they had not used before the program. However, there was no statistical significance in memory strategies. It also suggests that some strategies last long after the program and others soon disappear. Factor analysis suggests that students use a variety of strategies. This may be the proof that students are highly motivated. The comparison of factor analysis scores between high achievers and low achievers indicates that low achievers use more memory strategies than high achievers. This implies that you need some other strategies besides memory strategies to be higher achievers of English.

目 的

英語学習者の学習意欲は海外英語研修によってどのように変わっていくのであろうか。海外で英語を学ぶことによって学習意欲が高まるとすれば、研修後もその意欲は長く存続するのであろうか。英語を母国語とする教師からすべて英語による授業を受けることによって、日本人学生はどのような学習 strategy を身につけるのであろうか。新しい strategy が身についたとすると、それは帰国してからも日本の学習の場で存続しているのであろうか。英語能力の上位群と下位群の間で、motivation と strategy に違いが見られるのか。本調査研究では学習者の motivation と strategy の側面から海外英語研修の成果を検討した。

調査方法

1. 調査対象者

女子大学英米文学科に学ぶ学生で3ヵ月半の海外英語研修に参加した学生を対象に、(1)研修2ヶ月前、(2)研修直後、(3)研修後6ヵ月の learning motivation と learning strategy を調査した。海外研修の事前

と事後の分析は、3回の調査にすべて回答した学生 63 名を対象に行った。研修直後の分析は 143 名を対象とした。

2. 質問紙及びヒアリングテストの実施

質問紙は Schmidt, et al. (1996)⁽¹⁾が行った調査研究の質問項目から、learning motivation と learning strategy をそれぞれ 18 項目選び和訳したものを用いた。質問項目の構成は Table 1 の通りである。各項目についての回答は、「とてもそう思う」、「そう思う」、「少しそう思う」、「あまりそうは思わない」、「そうは思わない」、「全くそうは思わない」の選択肢から自分の考えに合うものを 1 つ選ばせる形式である。得点化するにあたっては、ポジティブな方から、それぞれ 6, 5, 4, 3, 2, 1 として数値化した。

Table 1. Structure of Items in Questionnaire

Learning Motivation	
Intrinsic Motivation	1, 2, 3, 4
Extrinsic Motivation	5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15
Motivational Strength	16, 17, 18
Learning Strategies	
Direct Strategies:	
Memory Strategies	1, 2, 3, 4
Cognitive Strategies	5, 6, 7, 8, 9, 10, 11
Indirect Strategies:	
Meta-cognitive Strategies	12, 13, 14, 15, 16
Social Strategies	17, 18

Motivation の項目の中で、Item3「英語学習は楽しくないが、私にとって重要である」と Item4「私は英語を授業に行かないで、もっと簡単に学べたらよいのと思う」は Item1「私は英語を学ぶことがとても楽しい」と Item2「英語を学習することは私にとって一つの趣味だ」の逆の内容を表す項目 (reversed code) である。Extrinsic motivation の項目は、Gardner や Lambert の研究で分けられた統合的動機 (integrative motivation) と道具的動機 (instrumental motivation) からなっている。Learning strategy の項目は、Oxford (1990) の taxonomy⁽²⁾によって分類すると Table 1 のようになる。この同じ質問紙を用いて 3 つの学習段階 (研修前、研修直後、研修後 6 ヶ月) で調査した。研修直後の調査は研修場所のアメリカ・ワシントン州・スポケーンで実施した。なお、英語のヒアリング能力は英語能力全体を表しているという考えから、JACET ヒアリングテスト B を海外研修中に現地で実施した。

3. 分析の手順

数値化された質問紙の回答を質問項目ごとに集計し、次のような手順で分析した。

(1) Learning motivation と learning strategy について、研修 2 ヶ月前 (pre-test)、研修直後 (post-test 1)、研修 6 ヶ月後 (post-test2) のそれぞれの平均値を比較するために、3 回の調査の平均値について分散分析を試みた。また 2 つの平均値に対して t 検定を行った。

(2) 研修直後の回答を因子分析し、学習者の背後にある因子構造を探った。

(3) JACET のヒアリングテストの結果に基づき、SD プラス 1 以上の学生を英語能力上位群、SD マイナス 1 以下の学生を下位群として抽出し、グループ別に (2) で明らかとなった 3 つの因子についての因子得点の平均値を求め、t 検定を行い、有意差があるか否かを調べた。

結果と考察

1. Learning Motivation の変容

(1) Learning Motivation の比較

英語学習の3つの段階において learning motivation の平均値に差異が認められるか否かを調べるために分散分析を試みた。有意差の認められた質問項目は Table 2 に示す通りである。

Table 2. ANOVA of Learning Motivation Items
with Statistical Significance N=63

	SS	df	MS	F ₀
Item 1	16.39	2	8.20	10.44**
Item 2	8.65	2	4.32	3.39*
Item 3	12.14	2	6.07	3.98*
Item 5	8.33	2	4.16	4.14*
Item 12	12.55	2	6.28	5.20**
Item 16	8.14	2	4.07	3.97*
Item 18	10.57	2	5.29	7.70**

*P<0.05, ** P<0.01, df=2, 124

Table 3. Means and SDs of Learning Motivation Items with Statistical Significance

	Pre test(SD)	Post test 1(SD)	Post test 2(SD)
Item 1	4.23(1.00)	4.95(0.76)	4.51(0.85)
Item 2	3.49(1.22)	4.00(1.08)	3.86(1.51)
Item 3	4.17(1.27)	3.56(1.24)	3.83(1.16)
Item 5	4.59(1.12)	5.05(1.01)	5.02(0.83)
Item 12	3.89(1.15)	4.44(1.15)	4.43(0.95)
Item 16	4.48(1.11)	4.98(0.95)	4.75(0.94)
Item 18	2.71(0.92)	3.24(0.81)	2.76(0.37)

Table 4. Comparison of Mean Differences between Stages

			D	t ₀
Item 1	Pre test	- Post test 1	-0.71	-5.63**
	Pre test	- Post test 2	-0.27	-2.65*
	Post test 1	- Post test 2	0.44	4.03**
Item 2	Pre test	- Post test 1	-0.51	-3.86**
	Pre test	- Post test 2	-0.37	-2.88*
	Post test 1	- Post test 2	0.14	1.27*
Item 3	Pre test	- Post test 1	0.62	3.17**
	Pre test	- Post test 2	0.35	1.84
	Post test 1	- Post test 2	-0.27	-1.65
Item 5	Pre test	- Post test 1	-0.46	-3.40**
	Pre test	- Post test 2	-0.43	-3.04**
	Post test 1	- Post test 2	0.03	0.31
Item 12	Pre test	- Post test 1	-0.53	-3.50**
	Pre test	- Post test 2	-0.52	-4.05**
	Post test 1	- Post test 2	0.02	0.14
Item 16	Pre test	- Post test 1	-0.51	-3.92**
	Pre test	- Post test 2	-0.27	-2.25*
	Post test 1	- Post test 2	0.24	1.90
Item 18	Pre test	- Post test 1	-0.52	-4.04**
	Pre test	- Post test 2	-0.05	-0.45
	Post test 1	- Post test 2	0.48	4.06**

*P<0.05, ** P<0.01, df=62

分散分析の結果、1%水準で有意差が認められたItem 1「英語を学ぶことがとても楽しい」は、内発的動機(intrinsic motivation)の代表的な項目であり、海外英語研修によって学生は英語を楽しむが、帰国後はその楽しさが少し薄れていく実態をよく示している。5%水準の有意差が認められたItem 2「英語学習は私にとって一つの趣味だ」と、Item 3「英語は楽しくないが私にとって重要だ」も内発的動機に関わるものであり、この海外研修が学習者の内発的動機にいかに大きな影響力をもっているかが明らかになった。外発的動機(extrinsic motivation)の中の統合的動機(integrative motivation)の項目で、Item 5「英語は視野を広くしてくれるから私にとって重要だ」とItem 12「人と出会い友達ができるから英語を学ぶ」は、それぞれ5%水準と1%水準で有意差が認められた。Item 12の「人との出会い」は、ホストファミリーやアメリカ人教師を想定し、「友達」は共に寮生活をしていたアメリカ人学生を想定しているものと思われる。この2つの統合的動機は帰国後も保持されていることが注目される。Item 16「できるかぎり英語を勉強し続けたい」とItem 18「英語の勉強にベストを尽くしている」は、学習意欲の度合(motivational strength)について尋ねている。どちらもそれほど高い数値ではないが、研修前に比べて研修後は上っており、研修中には学習意欲が高まっていたと考えられる。しかし研修後6ヶ月の調査では、帰国後は「できるかぎり英語を勉強し続けたい」と望みながらも、「英語の勉強にベストを尽くしている」とは言えない状態に戻っている。(Table 4)

(2) 研修直後の学習意欲

調査対象を拡げて、143名の研修直後のlearning motivationの質問項目について因子分析を試み、第3因子までを抽出した。因子負荷量の高い項目として0.45以上のものを見ると、第1因子には18項目中の10項目が並んでいる。第1因子には、内発的動機、外発的動機の両方が含まれ、「高い学習動機」を表す因子としてとらえられる。第2因子は「学習意欲欠如」の因子と考えられる。海外英語研修に参加する学生の中にも、英語の必要性、重要性を認めながら「英語学習が楽しくない」と感じる学生がいることを示している。第3因子は、因子負荷量の高い項目が少ないため解釈することが困難であるが、Item 8(因子負荷量0.44)を含めて考えると、英語を「よい仕事や高い社会的地位を得る手段」としてみなす意識(instrumental motivation)があることを示している。

Table 5. Factor Analysis of Learning Motivation at the End of the Overseas English Training Program

質問項目	F1	F2	F3	h ²
16 できるかぎり英語を勉強し続けたい	0.56	-0.38	-0.05	0.46
1 英語を学ぶことは楽しい	0.54	-0.50	-0.15	0.57
15 英語が話せると素晴らしい人生になるだろう	0.53	0.09	0.23	0.34
14 もっとよく英語を学ばばよい仕事につける	0.48	0.37	0.46	0.58
11 永住したいから英語を学びたい	0.47	0.09	-0.54	0.52
12 人と出会い友達ができるから英語を学ぶ	0.47	0.05	-0.11	0.24
8 英語を話せると社会的地位があがる	0.47	0.32	0.44	0.52
9 英語を話す国で滞在したいから勉強する	0.46	0.38	-0.39	0.51
18 英語の勉強にベストを尽くしている	0.46	-0.25	0.16	0.30
2 英語学習は一つの趣味だ	0.46	-0.36	-0.16	0.37
17 よくどのようにうまく勉強できるか考える	0.44	-0.33	-0.01	0.30
5 英語は視野を広くしてくれるから重要だ	0.43	-0.17	0.05	0.22
13 もっと教育を受けるために英語を学ぶ	0.40	-0.01	0.26	0.23
10 旅行に役立つから英語を学びたい	0.40	0.50	-0.16	0.44
7 日本では誰もが英語を話せるべきだ	0.29	0.18	0.03	0.12
6 親が英語の上達を望むから勉強する	0.17	0.32	0.03	0.13
3 英語は楽しくないがわたしにとって重要である	0.09	0.46	-0.08	0.23
4 授業に行かないで英語を学べるとよいのに	0.05	0.45	-0.29	0.29
ΣF^2	3.24	1.93	1.18	6.35
寄与率 $\Sigma F^2/n(\%)$	17.99	10.70	6.57	35.26

(3) 英語能力差による Learning Motivation の比較

リスニングテストによって上位群(23名)と下位群(26名)を抽出して、Table 5の3つの因子について、各因子得点の平均値を比較し、Table 6の結果を得た。

Table 6. Comparison of Factor Scores in Learning Motivation between High Achievers and Low Achievers in Listening Test

		F1	F2	F3
上位群	Mean(SD)	0.39(0.88)	-0.17(0.93)	-0.32(0.96)
下位群	Mean(SD)	-0.32(1.02)	0.05(0.59)	0.25(0.71)
	D	0.72	-0.22	-0.58
	t ₀	2.62*	0.99	-2.40*

N(上位群) = 23

N(下位群) = 26

*P<0.05, df=47

両群の平均差が認められるか否かを調べるためにt検定を試みた結果、高い学習動機を表している第1因子では上位群と下位群の間に5%水準で有意差が認められた。このことによって英語能力の高い学生は低い学生よりも学習動機が一般的に高いと言える。第3因子にも5%水準で有意差が認められ、英語能力下位群は、英語を高い社会的地位や良い職業を得る手段と考える傾向があることを示している。

2. 学習 strategy の変容

(1) 学習段階による strategy の比較

海外英語研修による学習者の learning strategy の変容を見るために分散分析を試み、Table 7の結果を得た。全体として有意な差が認められたのは、cognitive strategy(Item 9, Item 11), meta-cognitive strategy(Item 12, Item 15), そして social strategy(Item 18)であり、memory strategyには差が見られなかった。海外研修において、英語を知識として学ばせるのではなく、英語を実際に使わせようとする指導の成果が現れている。

Table 7. ANOVA of Learning Strategy Items with Statistical Significance N=63

	SS	df	MS	F ₀
Item 9	15.53	2	7.77	9.33**
Item 11	21.47	2	10.74	10.70**
Item 12	7.84	2	3.92	3.63*
Item 15	6.32	2	3.16	3.11*
Item 18	7.44	2	3.72	3.18*

*P<0.05, **P<0.01, df=2, 124

この4項目の中、Item 9とItem 11においては1%水準で有意差が認められた。Table 8とTable 9に示されているようにItem 9「英語を使うときの誤りから、その理由を理解することによって学ぶ」の得点が研修直後に高くなった。海外研修によって、学生が英語を使う時に誤りを恐れなくなり、むしろ誤りをすることによって学習するという積極的な学習姿勢が伺える。またItem 11「英語の予習をするとき、最初に読みとおして、一般的な意味と要点をつかむ」でも、研修前と研修直後に差が見られる。どうしても細かなことにとらわれがちな日本人学生が全体を把握して要点をつかむリーディング方法を身につけている状況が伺える。さらに有意差を5%水準まで上げると、Item 12「テスト勉強のとき、全体を読むのではなく、最初にもっとも重要な点は何かを考える」にも差が見られる。しかもItem 9とItem 12は、研修直後と研修後6ヶ月の差には有意差が認められないので、そのstrategyが6ヶ月後にもかなり存続している点が注目される。Item 11「予習をするとき先ず一般的な意味と要点をつかむ」、Item 15「先生の教え方に合わせるために自分の勉強の仕方を変えようとする」とItem 18「質問があるときは先生に尋ねる

か、あるいは何か他の方法で答えを見つけようとする」は、研修直後と研修6ヶ月後に有意差が認められるので、研修期間に一時的に現れた strategy で、日本の学習環境に学ぶ6ヶ月後には、元に戻ったと読みとれる。このように海外研修によって身についた learning strategy には、帰国しても長く保持されているものと、すぐ消えていくものがあった。

Table 8. Means and SDs of Learning Strategy Items with Statistical Significance

		Pre test	Post test 1	Post test 2
Item 9	Mean(SD)	3.49(0.99)	4.19(0.79)	3.90(0.92)
Item 11	Mean(SD)	3.65(1.16)	4.48(0.91)	4.08(0.90)
Item 12	Mean(SD)	3.41(1.09)	3.90(1.05)	3.73(0.95)
Item 15	Mean(SD)	2.87(1.00)	3.05(1.06)	2.60(0.94)
Item 18	Mean(SD)	4.16(1.24)	4.57(0.95)	4.14(1.01)

Table 9. Comparison of Mean Differences between Two Stages

			D	t ₀
Item 9	Pre test	- Post test 1	-0.70	-5.24**
	Pre test	- Post test 2	-0.41	-3.09**
	Post test 1	- Post test 2	0.29	2.21
Item 11	Pre test	- Post test 1	-0.83	-5.24**
	Pre test	- Post test 2	-0.43	-3.36**
	Post test 1	- Post test 2	0.40	2.98**
Item 12	Pre test	- Post test 1	-0.49	-2.63*
	Pre test	- Post test 2	-0.32	-2.12*
	Post test 1	- Post test 2	0.17	1.18
Item 15	Pre test	- Post test 1	-0.17	-1.09
	Pre test	- Post test 2	0.27	1.77
	Post test 1	- Post test 2	0.44	3.38**
Item 18	Pre test	- Post test 1	-0.41	-2.67**
	Pre test	- Post test 2	0.02	0.12
	Post test 1	- Post test 2	0.43	3.81**

**P<0.01, *P<0.05, df=62

(2) 研修直後の strategy

研修期間中に身につけた learning strategy は研修直後の回答にもっともよく現れているはずである。研修直後の learning strategy を因子分析し、第3因子までを抽出して、Table 10の結果を得た。

研修直後の strategy は第1因子において因子負荷量の高い項目が多いので、たくさんの strategy 項目が混ざり合い、分析することは出来ない。学習者が英語を何とかして自分のものにしようとしているいろいろな strategy を用いているのであるから、全体として「学習意欲の表出」と考えられる。第2因子は逆に負荷量の高い項目が少ないので解釈が難しいが、Item 4(因子負荷量 -0.44)、Item 16(因子負荷量 0.40)、Item 11(因子負荷量 -0.39)を合わせて考えると、memory strategy の因子と言えよう。第3因子は Item 1とItem 12がそれぞれ memory strategy と meta-cognitive strategy に分類されている項目であり、解釈が不可能である。

Table 10. Factor Analysis of Learning Strategies at the End of the Overseas English Training Program

質問項目	F1	F2	F3	h ²
3 英語表現を口に出して言い書いて練習する	0.68	-0.22	-0.39	0.66
14 テスト勉強では分からない部分を見きわめる	0.64	0.28	0.03	0.49
17 自分と話してくれる人を積極的に探す	0.63	0.01	0.15	0.42
6 既習の規則との関係を考えて新文法を学ぶ	0.63	-0.09	0.20	0.45
18 質問があるときは答えを見つけようとする	0.62	0.09	0.22	0.44
11 予習するときまず一般的な意味と要点をつかむ	0.60	-0.39	-0.22	0.56
13 英語学習の進歩をいつも測る	0.59	0.35	0.11	0.48
4 新しい語を既習の語と関連づける	0.58	-0.44	-0.09	0.54
1 英単語を学ぶとき記憶するため口に出していう	0.57	-0.33	-0.48	0.66
7 英語の授業で学んだことを要約する	0.54	0.34	-0.17	0.44
16 常に復習して全てが理解できるようにする	0.53	0.40	-0.24	0.50
2 文法規則を覚えようとする	0.47	0.45	-0.38	0.57
12 テスト勉強では何が最も重要かを考える	0.45	0.02	0.49	0.44
8 分からない語は文脈から意味を推測する	0.45	-0.49	0.14	0.46
5 日本語と英語の相違点や類似点に注意する	0.44	-0.31	0.40	0.45
9 誤りの理由を理解することによって学ぶ	0.43	0.02	0.43	0.37
10 理解できる部分に分け言葉を意味理解する	0.33	0.19	0.02	0.15
15 先生に合わせるため自分の勉強法を変える	0.22	0.41	0.11	0.23
ΣF^2	5.16	1.74	1.41	8.30
寄与率 $\Sigma F^2/n(\%)$	28.64	9.67	7.83	45.13

(3)英語能力差による Strategy の比較

上位群と下位群の strategy の因子得点の平均値を比べてみると、第1因子に差は認められなかった。このことは英語能力の上位群も下位群も学習意欲が高まり、いろいろな strategy を用いて英語を学習している状況を反映している。第2因子は1%水準で差が見られ、下位群は上位群よりも多く memory strategy を用いていることが推測される。第3因子には有意差が認められなかった。

Table 11. Comparison of Factor Scores in Learning Strategies between High Achievers and Low Achievers in Listening Test

		F1	F2	F3	
上位群	Mean(SD)	0.46(1.18)	-0.46(1.15)	0.28(1.31)	N(上位群) = 23
下位群	Mean(SD)	0.01(0.80)	0.36(0.80)	-0.23(0.73)	N(下位群) = 26
	D	0.45	-0.83	0.51	
	t ₀	1.58	-2.96**	1.72	

**P<0.01, df=47

まとめ

英語で積極的にコミュニケーションをする能力をつけるためには、英語の言語事項の学習と同時に自ら motivation を高める努力をし、learning strategy を考えていく必要がある。

調査の結果、海外英語研修後は研修前に比べて、内発的動機が高まっていた。Ellis(1994)⁽³⁾は「L2 学習をする動機を起こさせるものは、自分の言いたいことを伝えたいという欲求であり、それが伝わった時の

快感である」と述べている。海外英語研修は英語でコミュニケーションする機会を十分に与え、この欲求を満たすようなプログラムが組まれており、その結果として内発的動機が高まったと考えられる。研修直後の回答の因子分析では第1因子の因子負荷量の高い項目に統合的な学習動機が多くあった。言語学習での motivation 研究の初期に行われた Mueller(1971)⁽⁴⁾や Maidment(1976)⁽⁵⁾による報告では、外国語として英語を学習する場合には、道具的学習動機によって支えられていることが多いという結果が報告されているが、本研究では、外国語として英語を習う場合でも、海外研修によって統合的な学習動機が増大していることに注目したい。英語能力の上位群と下位群の比較では、下位群の方が上位群よりも少し「よい仕事や地位を得る手段」として考える傾向があった。この結果は、奥村(1994)⁽⁶⁾の中学生を対象にした調査研究で、英語の上位群と下位群の比較で、「上位群は統合的動機、下位群は道具的動機をもっていた」の調査結果とも一致する。Dornei(1990)⁽⁷⁾は、「外国語学習における学習段階によって motivation の働き方が異なる。Intermediate level では instrumental motivation が重要な役割を果たしている。Advanced level では socio-cultural reason や non-professional reason が出てくる」と述べている。上位群と下位群を英語の学習段階としてとらえ、上位群を advanced level、下位群を intermediate level として考えると、下位群の方が上位群よりも英語を道具として考え勉強しようとしている傾向(instrumental motivation)がある結果は Dornei(1990)の報告と類似している。

Learning strategy の回答では、memory strategy に数量的な変化はなかったが、cognitive strategy, meta-cognitive strategy, social strategy の項目に変化が現れた。学習者は海外研修によって英語の運用能力だけでなく、learning strategy も身につけることを示している。英語能力の上位群と下位群の比較では、下位群に memory strategy が多く見られ、英語能力を向上させるためには memory strategy と同時に他の strategy が必要であることを暗に示している。研修直後の learning strategy の因子分析は、第1因子に因子負荷量の高い項目が並び、学習者はいろいろな strategy を用いて研修中に学習したことが伺える。

本研究では learning motivation と learning strategy の面からも海外英語研修は成果があることが明らかになった。Oxford and Nyikos(1989)⁽⁸⁾が述べているように、motivation が learning strategy に影響を与え、その結果 proficiency が高まり、その proficiency によって motivation がさらに高まるという構図が予測できる。今後はその motivation を帰国後どのように保っていくか、新たにどのような動機づけが考えられるかを検討していく必要がある。また英語そのものの学習と同時に strategy の指導も大切になる。

参考文献

1. Schmidt, R., Borge, D., and Kassabgy, O., 'Foreign Language Motivation: Internal Structure and External Connections,' in In Oxford, R. (Ed.), *Language Learning Motivation: Pathways to the New Century*, Honolulu, University of Hawai'i Press, pp.9-70(1996)
2. Oxford, R.L., *Language Learning Strategies*, New York, Newbury House(1990)
3. Ellis, R., *The Study of Second Language Acquisition*, Oxford, Oxford University Press, p.516(1994)
4. Mueller, T.H., 'Student Attitudes in the Basic French Courses at the University of Kentucky,' *MLJ*, 55, No.5, pp.290-298(1971)
5. Maidment, E.H., 'The Motivation of Students Studying EFL in London,' *ELTJ*, 31, No.3, (1976), pp.203-207(1976)
6. 奥村智美, 「英語における学習状況と動機づけの関連」, 『中部地区英語教育学会紀要』, 87, pp.117-126(1994)
7. Dornei, Z., 'Conceptualizing Motivation in Foreign-Language Learning,' *LL*, 40, p.68(1990)
8. Oxford, R. and Nyikos, M., 'Variables Affecting Choice of Language Learning Strategies by University Students,' *MLJ*, 73, pp.291-300(1989)